

イオン スカラシップ同窓会

……つながる、ひろがる。イオン スカラシップの輪……

20周年を機に、出身大学別に「イオン スカラシップ同窓会」が立ち上がりました。各校毎に議長・副議長・会計幹事の方々を選出しています。20周年式典にご参加いただけなかったOB・OGの皆さまも、各校の議長とつながり、ぜひ同窓会にご参加ください。当財団事務局としても、同窓会活動を支援していく計画です。



ぜひ一緒にイオン スカラシップ生の輪を大きく育てていきましょう！

【お問い合わせ】➡1p@aeon.info (同窓会事務局)

AEON 1% CLUB



2006 ▷▷▷ 2025

イオン スカラシップ 20th Memorial Book

公益財団法人

ワンパーセント

イオン1%クラブ

[発行元] 公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5番地1

Tel 043-212-6023 Mail 1p@aeon.info

右記のQRコードを読み取ると当財団の活動詳細をご覧いただけます。▶
<https://aeon1p.or.jp/1p/>





書 岡西 佑奈様

「暖 ー暖かい心を世界へー」

この言葉は、イオン スカラシップ20周年記念式典にて
OB・OGが「過去から未来へつなぐ架け橋」をテーマに、
留学経験から得られたことや次の世代へ伝えたいメッセージをディスカッションし、
紡ぎ出した言葉の中から参加者全員による投票によって選ばれたものです。
イオン スカラシップに対する想いとして掲げられ、式典にご出演いただいた
書家の岡西様の生パフォーマンスによって力強く記されました。



岡西 佑奈 書家／アーティスト

6歳から書を始め、栃木春光に師事。高校在学中に師範の免許を取得。
水墨画は関澤玉誠に師事。書家として文字に命を吹き込み、独自のリズム感や心象を表現し、国内外で多数受賞。
2019年の新元号発表直後には、フジテレビ特別番組の生中継にて「令和」の文字を生パフォーマンスで揮毫。
自然界の「曲線美」を書技によって追求し、「自も他もなく、全ては一つであり調和している」という、
自然と人間、万物の調和が世界平和の一助を担うという信条を持ち、創作活動を行う。

20周年記念式典の詳しいレポートはP31へ ▶

■ 目次

ご挨拶	P02-05
ヒストリー/活動報告	P06-12
OB・OGによるメッセージ	P13-22
イオン スカラシップ対象大学祝辞	P23-30
20周年記念式典レポート	P31-37

20年を振り返り、未来へとつなぐ

イオン スカラシップは、本年20周年の節目を迎えました。
多様な文化や背景をもつ若者たちが、互いを認め、学び合い、
未来へ歩みを進めてきた20年は、
まさに私たちの希望そのものです。
本冊子では、スカラシップ生のこれまでの歩みを振り返り、
一人ひとりの声に耳を傾け、
彼らが紡いだ物語を記録いたしました。
変化の時代にあっても、人と人とのつながり、志の継承が
確かに未来を照らすと信じて。
イオン スカラシップが、次代を担うすべての若者にとって
希望の灯火となることを願っております。



■イオン スカラシップ20周年ロゴについて

国境を越えて助け合い、学ぶ志を持つスカラシップ生をイメージし、
幸福や知恵の象徴である「フクロウ」を20周年のモチーフに決定いたしました。

「日本と母国の未来を担う架け橋に」

— 持続可能な社会の実現を目指す若者たちへ —



公益財団法人イオンワンパーセントクラブ
創立者 岡田 卓也
イオン株式会社 名誉会長相談役

1989年9月、ジャスコからイオンへのグループ名称変更にあたり、国際的企業グループへの飛躍を目指して新たなスタートを切りました。

その際、企業の市民性を掲げ、社会貢献活動をより積極的に展開するため、「イオングループワンパーセントクラブ(現イオンワンパーセントクラブ)」の設立をしました。

元来、日本には、近江商人の「三方よし」に代表される、企業の社会貢献に係る理念がありましたが、高度経済成長とともにそれが忘れ去られているのではないかと私は懸念していました。

私はジャスコの前身のひとつである岡田屋の時代から、交通遺児に対する奨学金制度や、桜の植樹などの社会貢献活動を行っておりました。新生イオングループの基本理念、お客さまを原点に『『平和』を追求し、『人間』を尊重し、『地域社会』に貢献する』のもと、当財団の設立に至りました。永続的に活動ができるようグループ主要企業の税引き前利益の1%を拠出し、年度ごとの活動に充てる仕組みとしました。

イオン スカラシップは、「諸外国との友好親善」の一環となる事業で、アジアの若者が日本で学び、将来母国と日本の架け橋となることを願い、2006年に創立しました。これまで約1万人に及ぶ奨学生が世界に羽ばたき、社会に貢献する姿を見て、その成長は感慨深いものがあります。

今後はさらに多様な価値観を持つ人材が、このスカラシップを通じて互いに学び合い、日本と母国そして世界を繋ぐ架け橋になってくれることを願っています。挑戦する若者たちが、自らの未来だけでなく、他者の幸せや持続可能な社会の実現にも心を寄せられるような学びの場を、これからも共に育んでいきたいと思います。



2007年 イオン スカラシップ認定証授与式

「20年の絆、次の時代へ」

— イオン スカラシップに寄せる想い —

公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、イオングループの基本理念を具体的な行動に移し、社会的責任を果たすことを目的に1990年に設立されました。

以来、お客さまにイオングループをご利用いただき生まれた税引き前利益の1%相当額をもとに、「子どもたちの健全な育成」、「諸外国との友好親善」、「地域の発展への貢献」、「災害復興支援」を主な事業領域として、環境・社会貢献活動に取り組んでまいりました。

この中で「諸外国との友好親善」の一環として、2006年より、日本へ留学するアジアの大学生、及びアジア各国の大学で学ぶ現地の大学生を対象にイオン スカラシップを開始いたしました。将来、日本と母国との架け橋として国際的に活躍していただくことを願い、これまでに国内外で約1万名の学生を支援してまいりました。

イオン スカラシップ開始からの20年を振り返りますと、世界は大きな変化と困難に直面してきました。世界的な経済危機や地球温暖化に伴う異常気象、度重なる自然災害、そして新型コロナウィルスのパンデミックなど、多くの試練がありました。それらを乗り越えてきたことで、我々は国際社会の連携と協力の重要性を改めて認識することとなりました。



イオン スカラシップ20周年
スカラシップ生代表より記念品贈呈



公益財団法人イオンワンパーセントクラブ
理事長 渡邊 廣之

イオン スカラシップ修了生の方の中には、各国の政府機関や国際機関、企業の要職に就かれている方をはじめ、様々な分野でグローバルに活躍されている方が数多くいらっしゃいます。国際的な視点と、異なる文化への深い理解を基盤に社会の発展に貢献される皆さんの姿は、イオン スカラシップが単に経済的支援にとどまらず、未来を担う人材の育成を通じて、国際社会の連携と協力を深める意義ある事業であることを体現しております。

こうした成果は、スカラシップ生一人ひとりの努力と高い志によるものであると同時に、ご支援くださっている関係者の皆さま方の温かいご協力の賜物でもあります。

イオン ワンパーセントクラブは、今後も次の世代を担う若者たちが、国際社会の中でその力を存分に発揮できるよう、支援の輪を広げてまいりたいと考えております。そして、日本と母国を結ぶ架け橋として、今後ますます活躍されることを心より期待しております。

最後に、20周年を機に「イオン スカラシップ同窓会」を立ち上げ、ぜひこの会を通じて国境を越えたネットワークを広げていただければと思います。

イオンワンパーセントクラブは今後も皆さまと力を合わせて次の時代を切り拓くパートナーであり続けたいと願っております。



**SIGN
HERE**



History of AEON 1% Club

「お客さまを原点に『平和』を追求し、『人間』を尊重し、『地域』に貢献する」という理念を具現化するため生まれたイオンワンパーセントクラブ。これまでの歩みと4つの事業の柱をご紹介します。

- 1990 平成2年
 ■「イオングループ1%クラブ」設立
 ■「小さな大使」第1回開催
 (現:ティーンエイジ アンバサダー)
- 1996 平成8年
 ■環境庁(現:環境省)
 「こどもエコクラブ」活動支援開始
- 2000 平成12年
 ■「学校建設支援事業」開始
- 2003 平成15年
 ■「中学生作文コンクール」開始
- 2005 平成17年
 ■「イオン こどもエコクラブ」から
 「イオン チアーズクラブ」に改称
- 2006 平成18年
 ■「イオン スカラシップ」開始
- 2007 平成19年
 ■「シハヌーク・イオン博物館」完成
 ■「地域行事支援」開始
 (現:ふるさと未来支援)
- 2008 平成20年
 ■「イオン すくすくラボ」開始
 ■「小さな大使」を
 「ティーンエイジ アンバサダー」に改称

イオンワンパーセントクラブの歩み

時代が移り変わっても、変わらない想いがある。

人と人をつなぎ、未来へと続く笑顔のために。

1990年、社会が豊かさの本質を問い始めた時代に、
 イオングループ1%クラブは誕生しました。

お客さまにイオングループをご利用いただき生まれた

税引き前利益の1%相当額をもとに、

「子どもたちの健全な育成」、「諸外国との友好親善」、

「地域の発展への貢献」、「災害復興支援」の4つを

主な事業領域として、地域や国境を越えて

環境・社会貢献活動に取り組んでまいりました。

そして本年、設立35周年の節目の年を迎えました。



- 2009 平成21年
 ■「アジア大学生環境フォーラム」
 第1回開催
 (現:アジアユースリーダーズ)
- 2010 平成22年
 ■「イオン ユニセフ セーフウォーター
 キャンペーン」開始
- 2011 平成23年
 ■「東北支援」開始(～2021年まで)
- 2012 平成24年
 ■「イオン エコワングランプリ」開始
- 2015 平成27年
 ■「公益財団法人」へ移行
 (公益財団法人イオンワンパーセントクラブ)
- 2016 平成28年
 ■「未来農業DAYs」開始
 (～2020年まで)
- 2019 令和元年
 ■「首里城復興支援」開始
- 2024 令和6年
 ■公益財団法人近野教育振興会より
 奨学金事業を承継
- 2025 令和7年
 ■「イオン スカラシップ」
 日本人大学生へ対象を拡大

- 事業共通
- 青少年の健全な育成事業
- 諸外国との友好親善事業
- 地域の発展への貢献事業
- 災害復興支援事業



イオン スカラシップ事業紹介

イオン スカラシップは、アジアの大学生を対象に、将来日本と母国の架け橋となり活躍してほしいという願いのもと実施しています。

国内では、奨学金を給付しているほか、奨学生同士の交流会や宿泊研修セミナー、ボランティア活動などの機会を提供しています。

国外では、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、ミャンマーの大学で学ぶ現地の奨学生に、毎年各国で奨学生認定証授与式を開催し、大学を超えた奨学生同士の交流の場や日本語スピーチコンテストなどの機会を提供しています。



▲ 認定証授与式

日本やアジア各国で認定証授与式が開催され、代表の奨学生が「私の夢」を発表します。



▲ フォローアップセミナー

日本に留学するアジア各国の大学生を対象に奨学生セミナーを開催します。



▲ 修了式

日本やアジア各国で、奨学生同士の交流を深めるプログラムが実施されます。

2025年6月 認定証授与式の様子



経済的な支援だけでなく、国際的な交流を通じて学生の成長を支援し、日本とアジア各国との友好親善を促進する役割を担っています。

Message from Scholarship Recipients

世界各地で活躍する

イオン スカラシップ生の皆さまに、

留学当時のエピソードや思い出、

現在のお仕事などについて伺いました。





THAN THI MY BINH

2008年認定 タイ ティ ミ ビン(ベトナム)

千葉大学在学中にイオン スカラシップを受給。現在、ベトナムハロン大学で学科長として日本語講師を務め、日本語・日本文化を広める活動を行っている。



ZHU HONGZHONG

2010年認定 朱 洪忠(中国)

京都大学在学中にイオン スカラシップを受給。現在は、九州大学の副教授として、洋上風力を活用した環境エネルギー発電技術の研究を行っている。

日本語教育を通じて、母国と日本の架け橋に

イオン スカラシップ奨学金制度は、当時在籍していた千葉大学での募集を見て申請しました。当時は奨学金制度自体が少なく、学費だけでなく生活費まで支援いただける点、また給付型という点に大変魅力を感じました。私費留学生だったのでアルバイトと学業の両立で日々忙しく過ごしていましたが、奨学金のお陰でアルバイトを減らすことができ、多くの研究や活動に参加することができました。指導教官のゼミや研究会などに参加したことで他の大学の先生や先輩たちとも交流ができ、今でもその縁は続いています。

現在、私はベトナムに戻り、ハロン大学にて母国の学生たちに

日本語を教える傍ら、ベトナムの教育訓練省で小・中・高校の日本語教科書作成に携わったり、ベトナムにおける日本語教育向上のために国際交流基金ベトナム日本交流センター(Japan Foundation)の日本語教師育成講座などにも参加したりと、日本語や日本文化を伝えるための活動を行っています。日本での留学で学んだことや研究したことは、現在も大学の授業に役立っています。例えば、大学在籍時の通訳経験なども活かしていますし、「異文化コミュニケーション」という授業では、日本とベトナムの明確な違いについて学生たちに教えることができます。また、日本へ留学したいという学生たちに経験者の目線からアドバイスをし、日本の大学事情について詳しく教えることもできます。

今ではベトナム国内の大学でもイオン スカラシップを受けられると知り、大変素晴らしいことだと感じています。ベトナムの山地に生まれた私にとって幼い頃の夢は、飛行機に乗ることでした。毎日、畑で母と農作業をしながら空の飛行機を見て「乗ってみたいなぁ」と思っていたので、日本へ発つ日はまさに夢が叶った瞬間でした。そして帰国してからの今の私の夢は、ベトナムの難民に関する本を執筆することです。日本で留学し、得た経験を糧に、いつも夢や目標を忘れることなく挑戦を続けていきたいです。



再生エネルギーの新たな可能性を信じて

日本に留学する以前、中国の火力発電所に勤務していました。そこで日本人の技術担当の方とコミュニケーションをとった際に、日本製品の安定した性能や高い技術に感銘を受け、より深く学びたいと考えるようになりました。そこで、先述の日本人の技術担当者にお会いした際に「日本へ留学してみてもどうか」と勧められたことが、留学を決意したきっかけです。日本へ留学し、技術だけでなく異文化を体験し、環境を変えて経験を積み、視野を広げたいと考えました。

修士課程2年の2010年、京都大学の情報学研究科でイオン スカラシップの公募を知り応募しました。奨学金を得たことで

経済的な負担が軽減し、日々の研究に集中できたことがとてもありがたかったです。また余裕ができたことで、週末には国際交流センターで日本語を学び、日本文化を体験しながら他の留学生とも積極的に交流できたのが思い出深いです。

現在、私は洋上風力発電の研究に従事しています。海に浮かぶ浮体の上に設置する風車の設計や安定性の解析、制御技術の開発が主な内容で、荒天時には現場での点検が難しいため、コンピューター上に風車の動作を再現するシミュレーションモデルを構築し、実際の風車の動きを遠隔で予測・分析できるようにしています。以前携わっていた火力発電は石炭を燃料とし、環境負荷が大きいことに問題意識を感じていたため、博士号取得後は再生可能エネルギー分野に転じて、環境に優しい発電技術の発展に貢献したいと考えました。その当時、ちょうど九州大学で洋上風力の開発・制御を担う研究者を募集しており、ご縁を感じて応募したことから現在に至ります。

今後は理論研究と社会実装の両面から洋上風力の導入を加速させ、ネットゼロ・温室効果ガス排出ゼロの実現に貢献していきたいです。





HAMIDAH BOHRI

2011年認定 ハミダ ボアリ (マレーシア)

国際大学在学中にイオン スカラシップを受給。現在は、イオンマレーシアで革新的なサービスを統合するエコシステムの構築に取り組んでいる。



PATRICE EUGENE JUBIEARTO

2017年認定 パトリス ユージン ジュビアルト (インドネシア)

慶應義塾大学在学中にイオン スカラシップを受給。
現在は、株式会社日本経済新聞社でマーケティングを担当している。

お客さまの豊かな生活を支えるために

幼い頃から日本に惹かれ、日本人の勤勉さや伝統を大切に
心、現代と歴史を調和させる生き方に強く憧れを抱き、「いつか
日本で学びたい」という夢をずっと持っていました。イオン
スカラシップの存在を知ったのは、国際大学に入学したとき
です。大学の事務局から新入生向けに奨学金についての説明が
ありました。その際にイオン スカラシップ奨学金制度を教えて
いただき、著名な企業が若者の夢の実現に力を尽くしている
ことを知り、心強く感じたことを覚えています。

支援を受けていた当時は、私にとって人生で最も充実した時間
だったと思います。経済的な心配をすることなく、学業に集中

することができ、さらに世界中から集まったクラスメイトとの交流
を通じて、多様な文化を学び、友情を育み、今でも続くネットワー
クを築くことができました。この期間は、自己成長と自分らしさを見
つける貴重な時間であり、社会に踏み出す自信を養えた時期
でもありました。

現在、私はイオンマレーシアにおいて、ロイヤルティプログラム、
顧客エンゲージメント、データソリューション、革新的なサービスを
統合するエコシステムの構築に取り組んでいます。留學生活で
身につけた忍耐力や柔軟性は、仕事を進める上で大いに役立って
いると感じます。課題を解決する時にはさまざまな見方から
考えることで、一つの解決策にこだわらず、多くの可能性を検討
することができるようになりました。こうした視野の広さや柔軟な
思考は、複雑な課題に取り組む今の仕事に欠かせないものとな
っています。今後は、人々の生活により良いインパクトを与える
プロジェクトを主導していきたいと考えています。私の目標は、
一緒に働く仲間や組織に真の価値をもたらし、お客さまにとって
日々の体験をより便利で魅力的なものにすることです。テクノロジー
だけに頼るのではなく、人々のニーズをしっかりと理解し、生活を
より充実させることにも注力していきたいです。



写真家との出会いから拓かれた未来

留學当時、応募できる奨学金制度が限られていたので、イオン
スカラシップにご支援いただけたことを大変ありがたく思っ
ております。留學のきっかけは日本のとある写真家。インドネシア
にいた頃、たまたまテレビで見かけた写真家の大ファンになり、
日本に興味を持ちました。来日後は学業に取り組む一方で、
イオンワンパーセントクラブ主催のイベントを通じて多くの方
々と交流し、多様な考えに触れ、自身の知見を深める充実した
学生生活を送ることができました。同郷の方とも繋がりを持つ
ことができ、就活時に情報交換をしたり、模擬面接を一緒に
したり、社会人になった今も定期的に食事に行ったりと、関係が



続いています。これも、イオンワンパーセントクラブだからこそ
できた繋がりだと感じています。勤務している日本経済新聞社は
世界有数のメディア企業として幅広い分野で有益な情報を発信し、
ビジネスを支える重要な存在だと認識しています。留學時代から
情報を頼りに行動してきた私にとって、情報に携わることは大きな
関心事でした。現在は日経スカウトアジアという英語のデータ
ベースのマーケティングを担当。イベントの開催、外部団体との
協業、広告の出稿・運用等を通して、見込み顧客を獲得していくのが
メインの仕事です。日本語に加えて英語、インドネシア語を使う
場面もありますが、さまざまな国の方々と仕事をしていくための
考察力と柔軟性は留學経験から培われたと考えています。今後は
事業のキーパーソンとして、より多様な業務に挑戦していきたいです。
先日、来日のきっかけとなった写真家ご本人に私の名前をサイン
していただく機会がありました。作品が手元に届いた時、15年の時
を経て、あの時の原点が今に繋がっていることを実感し、大変感動
しました。あの時、日本に飛び込む決断をし、自分の世界を広げる
ことができたのは、奨学金の支えがあったからこそだと深く感じて
います。

2006年認定



安 暁陽(中国)

Profile

東京大学公共政策大学院では経済学を専攻。現在は外国人向けのビジネスマナー教育に従事。将来は、留学生支援を通じて日中の架け橋になることを目指す。

留学当初、帰宅が深夜になってしまった際に警察から声をかけられ、戸惑った経験があります。当時は、日本は厳しいという印象を持ちましたが、日本で安心安全に生活できるのは、実はそういう厳しさからなのだと今では思います。そんな苦労もありましたが、周りの人に助けていただき、少しずつ前向きに日本での生活を送れるようになっていきました。ご支援をいただいたからこそ良い就職先に巡り会い、日本に定住する道も開けました。現在は外国人のビジネスマナー教育に携わっています。また今後はより多くの中国人が日本に留学できる仕組みづくりをやりたいと考えています。奨学金を受けてから20年近く経った今でも、イオンの活動には関心を持っています。経済的なご支援にとどまらず、心の支えを与えてくれたイオンスカラシップは、私の人生を変える力を持っていました。日本を第二の故郷に感じられるのも、この制度のお陰です。

2007年認定



逄 布新(中国)

Profile

神戸大学では微生物学を専攻。現在はイオングローバルSCM株式会社にサプライチェーン企画に従事。学生時代に培った探究心と問題解決力を活かして活躍中。

イオンスカラシップのおかげで研究に集中できるようになり、さらに授与式や植樹イベントなど、大学の外の世界も知ることができました。イベントを通して社会人と交流し、「自分もこんなふうに優しく格好いい人間になりたい」と心に刻んだ体験は、今でも大切な原点になっています。最初は言語や文化の違いに戸惑い、スマホもない時代だったため孤独を感じることもありましたが、日本語を懸命に学ぶことで友人に恵まれ、生活はとても充実していました。現在はイオングローバルSCM株式会社にサプライチェーン企画に従事。専攻していた微生物学とは一見関係のないように思えますが、学生時代に培った実験の進め方、特に仮説を立てて検証するプロセスは、問題解決のアプローチとして非常に役立っています。これまで多くの方々に親切にいただいた分を、今度は後輩たちに還元していくつもりです。

2010年認定



章 程(中国)

Profile

北海道大学で法律について学びを深め、現在は浙江大学で主に民法学や行政契約、一部公法学の研究を行っている。

イオンスカラシップを通じて何よりも心に残っているのは、当時80歳を超えて、なお授与式にご出席されていた岡田卓也先生にお会いできたことです。実際にお会いして、「将来どう恩返しをすればいいのか」と真剣に考え、この制度の本当の目的は、将来受給者自身が同じような善意を他者に向けることなのだと気づかされました。現在、私は浙江大学で教鞭を執っており、主に民法学の研究をしています。自分も大学で教員として働き始めてから、中国四川省の貧困地域の子どもたちを支援する活動を始めました。大学教員の立場では、自分で奨学金を設立することはできませんが、毎年5名の小中学生の学費を個人的にサポートしています。彼らにも社会の善意を感じてもらい、そうした素晴らしい連鎖が続いていくことを心から願っています。

2011年認定



ホアン バン ヒュー(ベトナム)

Profile

千葉大学を卒業後、環境・エネルギー分野のコンサルティング企業に入社。ベトナムとの協力プロジェクトを中心に、国際的な環境課題の解決を目指す。

千葉大学に進学し、奨学金のご支援を受けたことで経済的な不安が和らいだ分、授業や研究に集中でき、異文化を背景に持つ仲間と関わる時間を増やすことができました。異なる価値観に戸惑うこともありましたが、対話を通じて意見をまとめ上げる過程は、協調力や柔軟な発想を育てる大切な経験だったと感じています。現在は、環境・エネルギー分野の国際プロジェクトに携わっています。留学で得た学びや人とのつながりが、今のキャリアを支える確かな基盤です。イオンスカラシップは単なる経済的支援にとどまらず、若者の可能性を広げ、次の一歩を踏み出す勇気を与えてくれるものだと思うています。この制度を支えてくださる皆さまに、心より御礼申し上げます。そして、私はこれからも人と人、国と国を結ぶ架け橋の一員として成長し続けたいです。

2008年認定



鄭 艷飛(中国)

Profile

慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程に進学後、白百合女子大学文学研究科博士課程を経て、文学博士に。現在は河北民族師範学院にて、学生の指導にあたっている。

日本語学の分野を学んでいた時、中国の大学院に進学するか、日本に留学するか大いに悩みました。当時の教授とも相談を重ねたうえで、まさに「清水の舞台から飛び降りる」覚悟で来日を決意。学んできた日本語は通じるのか、授業についていけるのかという不安もありましたが、最も大きな不安は経済的な面でした。そんな時、大学の掲示板でイオンスカラシップを知り、応募。文学博士になったのもこのご支援があったからこそです。教育者として学生へ指導をすること、本に囲まれながら研究することが私の夢であり希望でした。私が指導している多くの学生も日本へ留学をしています。当時の私の経験を語ることで、彼ら彼女らのこれからの人生に少しでも力添えができればと願っています。これからも日本と中国の往来を重ねながら、イオンスカラシップの理念に基づいて人々と社会に貢献する、誠実な人でありたいと思っています。

2009年認定



陸 丹(中国)

Profile

千葉大学園芸学部で日本庭園について学びを深め、現在は無形文化財の華道活用を研究しながら、華道家としても国内外で活動中。20周年式典では会場装飾のお花も担当。

奨学金を受ける前年、難病が発覚し、学業と闘病生活の両立に懸命に取り組んでいました。イオンスカラシップのおかげで日本での留学生生活を継続することができ、千葉大学を卒業した後は、東京大学大学院農学生命科学研究科に進学。卒業して12年が経ちましたが、千葉大学で出会った先生とは今でも交流があります。大学では日本庭園について勉強し、立花という生け花スタイルで風景表現に関する論文を日本造園学会に発表。その関連テーマで博士号を取得しました。現在は無形文化財としての華道の活用を研究しながら、華道家としても華道家元池坊中央研修学院の研究員を務め、国内外で活動しています。恩恵を受けた立場として「和」の精神を大切に、他者の役に立てよう尽力しています。イオンスカラシップには心から感謝しており、今後も多くの留学生の支えとなることを願っています。

2012年認定



チューン クアーン カーン(ベトナム)

Profile

京都大学経営管理大学院を卒業後、現在は東京の金融機関で勤務。日本経済への理解を深めながら専門性を高めている。

イオングループの皆さまや他の国の奨学生との出会いは、今でも私にとって大切な財産です。特に、当時知り合った友人とは現在も交流しており、お互いの人生やキャリアを励まし合う関係が続いています。学生時代は、学びと社会貢献の両立を支援してくれるイオンスカラシップのおかげで、学業や研究に力を入れながら、多くのボランティア活動にも積極的に参加し、日本社会への理解を深めることができました。また、イベントを通じて、全国の仲間たちと対話する中で、新たな価値観に触れ、視野を広げる貴重な経験も得ることができました。今後は、自らの経験を活かして、より広い視野で社会に貢献できる人材を目指し、自国と日本の架け橋となるような活動にも挑戦していきたいと考えています。

2013年認定



ドー ティ フエン チャン(ベトナム)

Profile

九州大学大学院修士課程を卒業後、現在は在ベトナム日本国大使館にて、日越海上保安協力の推進に従事。

イオンスカラシップを通じて、同じベトナム出身の奨学生と親しくなり、上野公園で満開の蓮の花を眺めたり、東京の市場で故郷の料理を作るための材料を探したりしました。異国にいながら心温まる時間を過ごせたのは、イオンスカラシップのおかげだと感じています。また、東日本大震災の復興ボランティアでは、貴重な経験をさせていただいたと思っています。将来の夢は、まだ日本を訪れたことのない両親を招待し、日本の魅力と一緒に体感してもらうことです。また、私の子どもが日本を好きになり、将来留学したいと思うようになれば、これ以上の喜びはありません。支えてくださった皆さまには、心から感謝しています。皆様のご支援が、多くの留学生に勇気と希望を与えています。これからも情熱を持ち続け、次の世代を支えてくださることを願っています。



2014年認定



チュア ピーエイチ トゥー ウバルド
(フィリピン)

Profile

国際大学国際関係学研究科を卒業後、株式会社イオンファンタジーに入社し、海外プレイグラウンド開発本部でオペレーション開発マネジャーを務める。

アニメやJ-POP、日本食など日本文化が大好きで日本語も学んでいたため、スキルを伸ばしたいという思いで留学を決意しました。しかしながら、日本語に自信はなく、流暢に話す仲間に圧倒されることもありました。それでも日本語クラスでの勉強と、仲間に支えられながら、日本語能力検定でN2に合格できたことは、今でも大きな自信になっています。学生時代は多国籍な環境の中で学び、さまざまな文化や価値観に触れる機会が多くありました。その経験は、海外の現場を回ったり、外国籍のスタッフを指導したりする仕事に大きく活かしています。多くの思い出の中で特に印象深いのは、日本国籍を取得したこと。留学をきっかけに始まった日本生活が、自分の人生の一部になったと実感した大切な瞬間でした。ひとつのきっかけが想像もしなかった未来を開くことがある、そう実感できたのはイオン スカラシップのおかげだと思っています。

2015年認定



薛 天成(中国)

Profile

慶應義塾大学を卒業後、営業職として広告関連の仕事に従事。今後は、個人的にYouTubeチャンネルを開設し、日本の魅力を多くの方に届けたいと考えている。

イオン スカラシップにご支援いただけたことでアルバイトの時間を減らして、年間50単位を取るなど勉強に使う時間を大幅に増やすことができました。また、小さい頃から日本の文化が好きで、連休を利用して地方を訪ね、都会では見られない日本の姿を知れたのはいい思い出です。最初は文化や習慣の違いに戸惑ったり、言語の壁にぶつかったり、家を借りる際になかなか契約が進まなかったりなど、課題も多くありました。しかし、先生や日本の友人の助けもあり、解決していくことができました。奨学生同士や日本の友人とのつながりは今でも深く、卒業後も交流が続いています。質問しあったり、アドバイスをしあったりする関係は今の自分を支えてくれる大切な財産です。また大学合格や就職、子どもの誕生など人生の大切な節目の多くを日本で迎えられたことは、私にとって大きな意味があると思っています。

2018年認定



金 顯修(韓国)

Profile

早稲田大学を卒業後、現在は株式会社KADOKAWAで、アニメのIP営業や海外市場開拓などに従事。将来の夢はアニメやゲームを制作すること。

漫画やアニメなどのサブカルチャーに関心があったので、その分野の仕事に携わりたいと思い、日本への留学を決めました。サークル活動では映画を自分たちで制作し、仲間と共に多彩なジャンルの作品作りに挑戦できたのは、私にとって一番の思い出です。現在は日本の出版社で、日本のアニメを海外に宣伝し、IPライセンスを海外企業へ営業する仕事に携わっています。インドや南米などにアニメの魅力を伝え、より多くの人を楽しんでもらうことが目標です。将来の夢は自分の手でアニメやゲームを制作することです。このような大きな夢を持てたのも、イオン スカラシップのおかげで興味のあった仕事に就くことができたからだと思います。夢の実現のためにこれからも努力を続けていきます。私の留学生生活を支えてくださった皆さまに感謝を伝えたいです。

2019年認定



リー ダネット(カンボジア)

Profile

流通科学大学で心理学を専攻。現在はカンボジアから日本への人材派遣や通訳を通じて文化の橋渡しを担う。

幼い頃、母の小さな果物売店を手伝いながら、海外の大学のパンフレットをよく見ていました。いつか発展した国で教育を受け、留学生活を送りたいと涙が出るほど切望していました。しかし途上国出身の自分や家族は経済的な余裕がなく難しいと思っていたのです。そんな時、日本語を学ぶ機会に恵まれ、留学のチャンスをつかむことができました。ご支援のおかげで、学業に集中することができ、日本語能力試験N1やTOEIC775点、中国語HSK4級に合格するなど語学力向上にも力を注ぐことができました。現在は、カンボジアから日本への人材派遣を行う送り出し機関で勤務しています。留学中に身につけた日本の文化や価値観への理解を活かして、カンボジアと日本の間の架け橋としての役割を果たせていると感じています。

2016年認定



馮 超(中国)

Profile

上智大学では社会学を専攻。現在は戦略コンサルティングの分野に従事。企業の経営戦略の立案や新規事業の企画、市場進出の支援などを行っている。

日本の文化や精神性に深く興味を持っていた私は、休暇や週末を利用して、日本各地の神社を訪れました。神社巡りを通じて、日本の伝統や地域ごとの個性に触れ、留学生としての視点で日本をより深く理解できたと感じています。また、一人旅をすることで自分自身と向き合う時間も得られ、将来の夢や目標を考えることもできました。この経験は、学生生活を特別なものにしてくれた宝物のような思い出です。皆さまのご支援がなければ、理想の大学を卒業し、日本での貴重な経験を積むことは難しかったと思います。現在、戦略コンサルティングの仕事で社会に貢献しようと努力していますが、その基盤となったのは間違いなくイオン スカラシップです。私の夢は、地元の復興に携わること。日本での留学生活で学んだ多様な視点や国際的なネットワークを活かし、地元とグローバルをつなぐ架け橋になりたいと考えています。

2017年認定



葉 凱(中国)

Profile

名古屋大学を卒業後、東京の私立大学で助教として、持続可能な社会の発展のために火災後の鋼構造物を再利用することや、自動化施工技術などを研究している。

日本に留学してすぐは、アルバイトをしながら勉強に励んでいましたが、奨学金をいただけるようになってからは、研究に専念できるようになりました。その結果、研究業績を積み重ね、博士課程まで進むことができました。イオン スカラシップのおかげで自分の学校や専門以外の人と出会い、さまざまな交流を通して、知識を深めることができたと感じています。日本への留学を決めた理由は、四川地震の経験からです。日本の発展している建築の耐震や防災を学び、人命を守れる研究者になりたいと考えています。現在は東京の私立大学で助教を務め、持続可能な社会の発展のために、火災後の鋼構造物の再利用や、自動化施工技術などを研究しています。今後の目標は、さらに研究に取り組み、業績を増やして准教授になることです。イオン スカラシップのおかげで築いた研究の礎を活かし、これからも人々の安全と未来に貢献していきたいです。

2020年認定



キム ピセット(カンボジア)

Profile

流通科学大学では経営学を学び、現在はカンボジアで日系飲食店のマネージャーに従事。将来は自身の店を開業し地域経済への貢献を目指す。

母国の発展のために、先進国で勉強することが必要だと考え、来日。経営学の授業で理論を学ぶ一方で、アルバイトで接客や仕入れ、店舗運営の実務を経験し、飲食店経営に向けて実践的な知識を積み重ねました。イオン スカラシップでは、交流の機会をたくさん与えていただきました。特に、宿泊研修セミナーでのグループワークや母国紹介のプレゼンテーションは強く印象に残っています。現在はカンボジアで日系飲食店のマネージャーを務めており、大学で学んだ経営や運営の知識が役立っていると感じます。今後の目標は日本と同じクオリティの居酒屋をカンボジアで開業することです。多くの人に愛される店を作り、地域経済にも貢献していきたいです。イオン スカラシップで得た学びや出会いが、現在の仕事と将来の夢を支える大きな力になっています。

2021年認定



チャン グェン ダン クィン(ベトナム)

Profile

流通科学大学で学び、現在はイオングループの銀行で勤務。今後は、後輩の指導やお客様対応にも積極的に取り組んでいきたい。

日本の高い教育水準や安心できる生活環境に魅力を感じ、さらに将来のキャリアにもつながると考え、留学を決意。また、日本の文化やマナー、礼儀正しさなどを現地で実際に学びたいとも思っていました。留学中、最も印象に残っていることは、奨学生同士での情報交換やイベントでの共同活動です。出身国や専攻分野の異なる仲間との交流は刺激的で、視野を広げる大きなきっかけになりました。特に学園祭でクラスのみならず一緒に出店準備から片付けまで協力して行い、国籍を超えた一体感を感じられたのは大切な思い出です。子どもの頃から、海外で学びながら新しい文化に触れたいという夢がありました。今、その夢を日本で実現できたことに感謝しています。今後は、自分の経験を活かして、誰かの夢の実現を支えられる人になりたいです。

2022年認定



袁 月(中国)

Profile

京都大学を卒業後、現在は中国銀行の公益財団で環境保護のプロジェクトを担当。今後は国際的なプロジェクトに挑戦していきながら、さらに大きな舞台での活躍を目指す。

環境デザイン学を専門にしていた私は、里山地域の蝶類多様性に関する研究に注目し、さまざまな調査を行っていました。奨学生に選ばれてからは、研究に集中することができ、充実した生活を送ることができました。授与式では優秀な奨学生たちと交流する貴重な機会をいただき、その際に連絡先を交換したことで、授与式が終わった後、そして大学や母国に戻ってからも連絡を取り合う関係が続き、友情やネットワークが広がったことは大変嬉しく思っています。異なるバックグラウンドを持つ仲間たちと意見を交換したり、日常生活や学びについて話し合ったりしたことで、自分の考えや価値観も広がりました。現在は、中国の銀行の公益財団で環境保護のプロジェクトを担当しています。学生時代に学んだことは今の仕事に役立っていると感じます。今後は国際的なプロジェクトにも参画し、さらに大きな舞台で活躍していきたいです。

2023年認定



パッタヤーウィ ナップラウィー(タイ)

Profile

東京工業大学で学び、現在はソフトウェアエンジニアとして勤務。将来はリードエンジニアとしてプロジェクトを主導し、テクノロジーによる社会貢献を目指す。

イベントを通じて、さまざまな背景を持つ学生や研究者と出会うことができ、留学生同士で交流できる貴重な機会もいただきました。仙台でサステナビリティについてアイデアを出し合ったことはとても印象に残っています。現在は、ソフトウェアエンジニアの仕事をしています。大学時代に身につけたプロジェクト管理能力や異文化コミュニケーションなどのスキル、技術的な知識は今の仕事に活きていると感じます。今後は、より高度な技術を身につけ、リードエンジニアとしてプロジェクトを主導できるようになりたいと考えています。私は、テクノロジーの力で自分の国の人々の生活の質を向上させたいという夢を持っています。また、人々がテクノロジーに対する理解を深め、より身近に活用できる社会を実現したいと考えています。イオンスカラシップは、私の人生における大きな転機となりました。支えてくださったすべての方々に、心より感謝を伝えたいです。

2024年認定



クンワル プラティクシャ(ネパール)

Profile

流通科学大学人間社会学部観光学科。観光に関する知識や地域活性化の方法を中心に学び、将来は観光業界でのキャリア形成を目指す。

イオン スカラシップでは、同じように努力している仲間と、勉強や進路について情報を交換したり、悩みを相談し合ったりする場があり、自分もさらに頑張ろうと思える良い関係を築くことができました。特に思い出に残っているのは、初めてお花見をしたことです。満開の桜の下で友人たちと一緒に食べ物を囲みながら笑い合った時間は、日本の文化を感じることができ、その日の景色や雰囲気が忘れられません。現在、人間社会学部の観光学科で学んでいます。観光に関する知識や地域活性化について学び、将来は観光業界で働きたいと考えています。幼い頃、私は世界中を旅してさまざまな文化や人々と出会うことを夢見ていました。また、自分の知識や経験を活かして、訪れる人々にとって心に残る旅の体験を提供したいという新たな夢も持っています。これからも挑戦を続けて、自分の夢を叶えていきたいです。

2025年認定



タン フイ スエン(マレーシア)

Profile

東北大学で航空宇宙工学分野を専攻。流体力学に関心があり、超音速流における乱流現象の数値シミュレーションを中心に日々研究に取り組んでいる。

イオン スカラシップを通じて、さまざまな国や地域から集まった留学生と出会い、お互いの文化や価値観を尊重しながら深い友情を築くことができました。また、イオンの皆さまとも交流する機会があり、社会貢献や国際協力に対する姿勢に大きな刺激を受けました。日本での思い出は、友人と一緒に行った花火大会です。初めて見る大きな花火の迫力と美しさに感動しました。屋台でたこ焼きやかき氷を楽しみながら、地元の人たちと一緒に夏の風物詩を満喫しました。現在は航空宇宙工学分野を専攻しています。特に流体力学に関心があり、超音速流における乱流現象の数値シミュレーションを中心に研究を進めています。将来は自分の専門分野を活かし、より安全で効率的な航空機や宇宙開発に貢献したいと考えています。そして多文化理解を大切にしながら、国際的なプロジェクトやビジネスに携わり、両国の架け橋として信頼される人材になりたいです。

Messages from 14 Universities

イオン スカラシップ対象大学の

代表者さまより、20周年に寄せての

祝辞とメッセージを賜りました。



北海道の土地を活かした、多文化環境の学び

本学では、学生の海外留学や留学生の受け入れ体制を整え、多様な背景を持つ仲間たちが共に学び、共に新しい価値を生み出せるような「多文化キャンパス」を目指して“国際的な共修”を推進してきました。今年度は「Hokkaido Summer Institute」という140科目ほどのサマースクールの実施や、研究大学としてフィールドワーク型の学びなどにも注力。北海道ならではの広大な

土地を活かし、実践的に学べるようなプログラムを展開しています。奨学生の皆さんには、この制度に選ばれたことを誇りに、学業にしっかりと打ち込んでほしいと考えています。留学生活では、多くの挑戦や苦勞に直面することもあるでしょう。しかし、その経験を糧に成長し、卒業後は、世界や社会が抱える課題の解決に貢献できる人として、大きく羽ばたいていくことを願っています。



国籍を超えてお互いが学び合える場に

1982年の開校当初は日本人学生の割合が多かった本学ですが、現在は学生の9割以上が外国人となっています。東南アジアだけでなくインドや南アジア、中央アジア、アフリカなども増えてきました。本学ではこれまで57名の奨学生にご支援をいただきました。たくさんの奨学生が日本へ来て多くのことを学べたのも、ひとえに貴奨学金制度のお陰といえます。そして金銭的な支援だけでなく、

就職支援をはじめ日本のマナーや一般常識を教えてくださいなど貴財団による細やかなケアも多く、安心して留学できたという声も届いております。私自身今も教室で授業を行っていますが、奨学生から教わることも大変多いです。お互いが学び合える場となり、何事にも前向きに取り組む姿勢を日々学生の皆さんと共有できればと思っています。



学びが交わる新たなステージへ

イオン スカラシップ奨学金制度により支援を受けている学生は、さまざまな学部・研究科に在籍し、主体的に学修や研究活動に取り組んでいます。中には、母国で貴財団主催の日本語スピーチコンテストに参加した後、本学に入学した学生もおります。同学生は本学入学後に貴財団の奨学生としてご支援をいただいております。修学のうでで経済面だけでなく精神的にも、大きな支えに

なっているとの報告を受けています。本学ではこれまで、国際サポートセンターや学生相談所などの関連部局が連携し、留学生の学修支援、生活支援、メンタルヘルスサポートに取り組んでまいりました。また、2027年に開設を予定している「ゲートウェイカレッジ」では、日本人学生と海外からの学生が共に学ぶ教育体制を構築し、国際共修の実践を支える基盤として整備を進めてまいります。



すべての学生に国際経験を

イオン スカラシップ設立20周年、心よりお祝い申し上げます。本学では51名の学生がご支援を受け、卒業後も日本国内の企業や研究機関で活躍しています。本学は「全員留学」を掲げ、すべての学生が在学中に何らかの国際経験を得る仕組みを構築してきました。また、留学生の受け入れ拡大についても強化を図っており、多様な背景や価値観をもつ学生が世界中から

集い、学び合い、成長し合う多文化共生のキャンパスを目指しています。意欲ある留学生の経済的負担を軽減しながら、学びの意欲を支える本制度は、グローバルシチズンの育成に大きく貢献するものです。これからも国際社会全体の持続可能な成長に向けて、重要な存在であり続けてくださることを心より願っております。

東京科学大学 学長 田中 雄二郎 様



留学生を支える社会の温もり

イオン スカラシップ奨学金制度は学生にとってもありがたい制度であるとともに、間接的に母国のご家族にとっても非常に助かる制度なのではないかと思えます。また、奨学金制度は他にもさまざまありますが、貴財団による支援だからこそ持つ意義があると考えています。街を歩けばイオン関連のお店が多くあります。不安な気持ちを抱えて日本に留学してきた学生たちにとって、

日本の社会が自分たちを支えてくれているという実感を持ちやすいのは非常に価値のあることです。今後もこの制度がさらに発展していくことを期待しています。本学は2024年に東京工業大学、東京医科歯科大学が統合して東京科学大学になりました。語学で不自由することのないような環境を整えながら、社会、そして世界に開かれた大学を目指していきます。

上智大学 学長 杉村 美紀 様



多様性を力に、質の高い教育研究を推進

貴財団には、日頃より本学の学生たちの学びを支えていただき、心より感謝申し上げます。このご恩にお応えできるように、本学としてもしっかり学生たちを育てていく所存です。また、奨学生たちには「他者のために、他者とともに」という本学の教育精神のもと、将来さまざまな国との架け橋になってくれることを大いに期待しています。創立112年目を迎えた本学は、学生のみならず教職員も

多様な国籍の人々で構成されています。これからも多様性を活かした質の高い教育研究活動を展開していきたいと考えています。現在96カ国の留学生が在籍する、国や文化を超えたグローバルキャンパスの特徴を活かして、互いに意見を交換し、違いを尊重し合いながら学び合う環境に向上すべく、より一層の充実を図ってまいります。

東京大学 理事・副学長 藤垣 裕子 様



多様な人々が学び合える「場」の提供

本学では留学生の受け入れに力を入れており、独自の奨学金制度を設けるなど不断の努力を行っていますが、まだまだ支援を必要とする学生が存在するのが現状です。この20年間で62名が貴財団の奨学生として採用され、経済的な不安から解放され、学業・研究に集中することができるようになりました。環境問題や経済格差などの社会問題を解決し、社会へ貢献したいと考える志の高い学生が

多く、生き生きと学業・研究に打ち込む姿が印象的です。本学は、基本方針である「UTokyo Compass 2.0」にて示しているとおり、多様性を包摂するキャンパスづくりに努めており、留学生が充実した生活を送りながら国内学生と学び合える環境づくりに力を入れています。今後も、国際社会でリーダーとして活躍できる人材を育成するため、多様な人々が学び合える「場」を提供・拡充していきます。

早稲田大学 総長 田中 愛治 様



留学生との交流で広がる学びの輪

長らく閉ざされてきた歴史を持つ日本に、海外から学生が学びに来てくださることを、誠にありがたく感じております。また、日本で学びたいと願う学生たちが学業に専念できるよう支援くださっている貴財団の皆さまに心より感謝申し上げます。本学ではStudy Abroadというプログラムがあり、将来的にはすべての学生が一度は海外での学びと生活を経験し、文化や価値観に触れる

こと、そして外から日本を見つめ直す経験が当たり前になる大学を目指しています。そうした中で、留学生との交流は日本の学生にとっても海外留学への第一歩となる貴重なきっかけにもなっているように感じます。このような好循環を生み出していくためにも、今後さらに多くの留学生を受け入れられる仕組みづくりを進めていきたいと考えています。

※掲載は地理順です。



新たな価値創造と持続可能な社会の実現

20年の長きにわたり若者の学びを支援されてきた崇高な理念と、揺るぎないご尽力に、深く敬意を表します。多くの留学生がご支援のもと本学で学び、多様な文化や価値観を学内にもたらすことで、日本人学生にとっても国際的な視野を育む貴重な機会となっています。イオン スカラシップ 奨学金制度は、将来の国際社会を牽引する人材を育み、世界各国との友好関係を一層深める重要な基盤で

あり続けることでしょう。多様な背景を持つ若者たちが互いに学び合い、協力し合うことで、新たな価値創造と持続可能な社会の実現に繋がると期待しています。本学は、創立以来「独立自尊」の精神のもと、学問を通じて社会に貢献する人材の育成に努めてまいりました。今後も貴財団のような素晴らしい制度との連携を深めながら、留学生への包括的な支援体制を強化してまいります。



研究大学としてのグローバルな取り組みを

20年間にわたるイオン スカラシップ奨学金制度の中で、本学は9カ国60名以上の留学生にご支援を賜りました。経済的な心配をせずに勉学・研究に専念できるという声が多く聞かれ、大変感謝しています。交流会やセミナーもあり、他大学の学生との交流などネットワークづくりもできて、奨学生にとっても視野や経験を広げることができる貴重な機会となっています。本学には、

Kyoto iUP (Kyoto University International Undergraduate Program) もあり、優秀な留学生を積極的に受け入れ、将来の日本社会を国内外から支える人材の育成を目指しています。「日本と母国の架け橋になる」ため、日本のことを深く理解し、両国の親善に貢献したり世界で活躍できる存在になっていただけたらと考えています。



協働して学ぶことができる環境を目指して

イオン スカラシップ20周年、お慶び申し上げます。長年にわたるご支援は、経済的援助にとどまらず、奨学生同士の交流会、宿泊研修セミナーやボランティア活動などの機会提供まで広がっています。この制度を通して多くのアジア諸国の留学生がそれぞれの夢の実現に向けて大きく前進することができております。本学では、文化や言語の垣根を越えて、互いの知的好奇心を刺激し、

協働して学ぶことができる環境づくりを目指しています。奨学生は本学が掲げる「多文化共修」の理念を体現する存在であり、新たな文化や視点を大学にもたらし続けています。今後も、地域社会や産業界との連携を深めつつ、国際的な課題に共に取り組み、日本と母国の架け橋となる人材の育成に尽力していくとともに、未来を担う若者たちが自らの可能性を最大限に発揮できるよう支援していきます。



ボーダーレスなキャンパスを目指して

イオン スカラシップの奨学金制度により、これまで57名の学生が支援を受けることができましたこと、大変ありがたく思っております。また、この制度が20年間にわたり継続されてきたことに心より敬意を表します。奨学金を受け取った学生たちからは、学業に集中できるだけでなく、課外活動やボランティアへの参加、日本文化に触れる貴重な時間を持てることへの感謝の声が多数

寄せられています。本学は、これからも国籍に関わらず多くの留学生と交流できるボーダーレスなキャンパスを目指し、異文化理解や多様な価値観を育む教育環境の整備に努めていきます。さらに、県や市などの自治体と連携しながら海外からの留学生と共に、多文化共生社会の実現に向けた取り組みを一層推進してまいります。



真の国際感覚を身につけられる大学に

貴財団からのご支援は経済的な側面にとどまらず、内容の面でも非常に充実しており、留学生にとってかけがえない貴重な経験を積む機会となっております。留学生の皆さんがより一層勉学や研究に励む姿は、日本人学生にも良い影響を与えてくれており、この制度の意義と重要性を実感しています。本学はまもなく設立40年を迎えます。大学の創設者・中内功の「流通の発展によって世界の

平和につながる」という考えのもと、開学以来、積極的に留学生の受け入れを進めてまいりました。これからは、すぐそばに日本国籍以外の人がいることが当たり前になる時代がやってきます。そんな社会の第一線で活躍する若い世代を育てていくためにも、お互いの文化や価値観、ナショナリティーを尊重するという、真の意味での国際感覚を身につけることのできる大学を目指していきます。

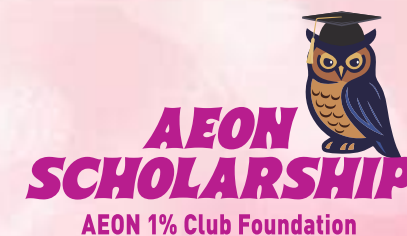


国際頭脳循環の実現を目指して

本学は、指定国立大学法人構想のもと、2030年までに年間3,200名の留学生受け入れを目標に掲げており、生活支援や教育環境のさらなる充実、引き続き重要な課題です。そうした中で貴財団の長年のご支援は、民間奨学金制度の模範とも言えるものであり、深く感謝申し上げます。また、ご支援のみならず、認定証授与式などで高い志を持つ他大学の留学生との交流や社会で活躍中の

先輩留学生の生の声をお聞きする機会も学業への意識を再確認する好機となっております。本学は、留学生が母国のアカデミアに貢献し、新たな留学生を日本へ送り出す「国際頭脳循環」の実現に向けて、今後も留学生および外国人研究者の支援体制を一層推進するとともに、日本人学生との交流・共修の機会を積極的に創出し、国際社会でリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指してまいります。

※掲載は地理順です。



20th
Anniversary

Ceremmony Report

2025年9月12日に開催された
イオン スカラシップ20周年記念式典。
特別な日となったイベントの様子を、
当日の写真とレポートで振り返ります。



——この一日が、過去と未来の架け橋になる。——

イオン スカラシップ 20 周年記念式典

歴代のイオン スカラシップ生が2025年9月12日(金)、本年のイオン スカラシップ20周年を機に、
旧交を温めるとともに、次代へ支援の輪を広げることを目的とし、
記念式典を開催いたしました。

式典のコンセプトは「The Past meets The Future ～この一日が、過去と未来の架け橋になる～」。

第一部ではゲストのモーリー ロバートソン様による基調講演や、
奨学生参加型ディスカッションプログラムを実施。

第二部では多方面で活躍する歴代奨学生や現役奨学生、イオン スカラシップを
ご支援いただいている関係者の方々など約300名が一堂に会しました。

(於:ホテルニューオータニ(東京) ザ・メイン宴会場階 1F 鶴の間)



第 一 部



● 会場受付

イオン スカラシップを受けたOB・OG200名以上が国内外から集結。出身大学ごとに受付。



● 第一部開演

開演前には久々の再会を喜び合う姿も。学年や大学を超えてチームごとに着席しました。
式典は、イオンワンパーセントクラブ 佐々木真理子事務局長によるウェルカムメッセージからスタート。



● 歴代担当者トークセッション

板谷豊さん、吉永園さん、長沼真紀さん、石暁文さんの4名が登壇。
クロストークも交えて、当時のエピソードに花を咲かせました。



● ディスカッション

「過去から未来へつなぐ架け橋」をテーマに、次の世代の奨学生へ伝えたいメッセージを
ディスカッション。メンバーが協力し、後輩たちに伝えたいメッセージをまとめました。



● メッセージ発表

各チームで話し合って決めたメッセージを発表。「勇気」「変化」「脈」など、自身の留学経験をもとに、
想いを込めたメッセージを披露しました。より共感したメッセージに投票し、代表となる案が決定。



● 来賓紹介



● 主催者挨拶

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 渡邊廣之理事長よりこれまでの歩みを振り返りながら感謝をこめてご挨拶。



● 来賓祝辞

外務省 アジア大洋州局長 金井正彰様よりお祝いのご挨拶を賜りました。



● 乾杯

国際大学学長 橘川武郎様より20周年の祝辞と、乾杯のご発声を賜りました。



● OBより歴代理事長へ記念品・花束贈呈

架け橋をモチーフにしたイラストには、歴代OB・OG約700名の名前が刻まれています。



● 当財団が支援するサイトウ・キネン・オーケストラによる弦楽四重奏

ヴァイオリン2本、ヴィオラ、チェロによる美しい音色の四重奏による、モーツァルト、ハイドン、ボロディンの3曲を披露。



● 劇団影法師 オリジナル影絵劇

OB・OGアンケートで寄せられた実際のエピソードを基に、日本へ留学し奨学生となり、困難を乗り越えて世界へ羽ばたく少女の姿をオリジナルストーリーにして影絵で実演。



● 第一部のディスカッションで各チームが紡ぎ出したメッセージを書道パフォーマンス

書家の岡西佑奈様による力強い書道パフォーマンスで発表され、選ばれたチームは「暖かい気持ちのバトンを受け取り、世界へ挑戦し続ける存在になってほしい」とメッセージについて説明しました。



参加者の投票で決定したメッセージは、「暖ー暖かい心を世界へー」。



● We Are The World合唱

参加者全員で「We Are The World」を合唱。国籍や年齢を超えて、会場の心がひとつになり感動の中で幕を閉じました。





参加者の声

記念式典に参加されたOB・OGより、たくさんの感想をいただきました！

モーリーさんのご講演は、ご自身の経験に基づき、「母国と日本の両国の文化を知る皆さんこそが、両国の架け橋となり、互いを理解し合えるように行動する責任がある」という力強いメッセージが込められていて、大変感銘を受けました。その後のグループディスカッションでは、さまざまな背景を持つ仲間たちとその責任をどう果たしていくか、過去と未来の架け橋になるメッセージについて語り合うことができ、非常に有意義な時間となりました。

外務省の金井様や国際大学の橘川様から心温まるお祝いの言葉をいただき、イオン スカラシップの歴史の重みと、我々奨学生に寄せられる期待の大きさを改めて感じました。弦楽四重奏や影絵劇、書道パフォーマンスは、いずれも圧巻で、日本の素晴らしい文化に触れることができ、感動いたしました。最後に参加者全員で「We Are The World」を合唱した瞬間は、一体感に包まれ、忘れられない思い出となりました。国や世代を超えて多くの仲間と再会・交流できたことは、私にとってかけがえのない財産です。この繋がりを大切に、社会に貢献できるよう、今後も精進してまいります。

→2013年認定 叶 好秋さん(中国)



これからの奨学生への想いを、言葉や形で残せたことは非常によかったと思います。イオンワンパーセントクラブの活動は、さまざまな方の多大な支援から成り立っていることを改めて感じました。このような集まりを通じて、過去を振り返り、将来に目を向けることが新たな取り組みにつながる気がします。

→2014年認定 セク キンワイさん(マレーシア)



今まで同窓会で交流する機会が少なかったのですが、これから交流するチャンスができることに、とてもわくわくしています。みんなと直接会って話し合っとても有意義な時間でした。

→2010年認定 グエン タン ルーンさん(ベトナム)

最初はかなり緊張していましたが、他の奨学生と話したり、大学時代の話や卒業後の進路の話や聞いた話、気持ちが楽になりました。さまざまな国籍のイオン スカラシップ生と出会うことは、このイベント以外では経験できないことです。主催してくださったイオンワンパーセントクラブに心から感謝いたします。皆さんとても活発で、刺激的で、知恵にあふれていて、参加できて本当に良かったです。これからも彼らと交流を続けていきたいです。

→2024年認定 ウィリー ヘルタスネン リワさん(インドネシア)



イオンワンパーセントクラブの理事長をはじめ、財団の役員、イオングループの会長、社長、母国の大使館の方や大学の学長にもご挨拶する機会があり、大変光栄でした。式典で特に印象に残ったのは、奨学生が考えた漢字を使って書道作品を作った企画で、リアルにパフォーマンスを見られてとても素敵でした。

→2019年認定 リー ダネットさん(カンボジア)



グループディスカッションでは参加者それぞれの異なる意見や体験を共有でき、対話を通じて自分では気づかなかった視点に触れることができました。第一部全体を通して、学びと交流の両面で非常に充実した時間となりました。第二部では、心温まる祝辞から始まり、記念品の贈呈では支援への感謝が伝わり胸が熱くなりました。弦楽四重奏の美しい音色は式典を華やかに彩り、影絵劇は独創的な表現で強く心に残りました。書道パフォーマンスは迫力と優雅さを兼ね備え、見入ってしまいました。最後の合唱では会場が一つになり、感動的な余韻を味わうことができ、とても充実した時間でした。

今回の式典・プログラムを通じて、多くの学びと出会いを得ることができました。今後もこのような貴重な機会が続き、奨学生同士のつながりがより深まっていくことを願っております。

→2025年認定 趙 乾禹さん(中国)

世代を超えたイオン スカラシップ生にお会いできて嬉しかったですし、20周年記念のテーマについて考える時間はとても楽しかったです。バックグラウンド・言語・文化・価値観が違っても、優しさ・思いやり・好奇心はそれらの壁をなくすことができているので、心あたまりながら第一部を楽しく体験させていただきました。弦楽演奏、影絵劇、書道パフォーマンス、「We Are The World」合唱は最高に楽しかったです。影絵劇のストーリーとナレーションは本当に感動的でした。言葉、暗黙のルール、文化の違いから生まれる不安、ストレス…それぞれ悩みがある中で、辛い体験と明るい希望に共感してくれる仲間たちとの繋がりに感謝し、大切にしていきたいと思います。

→2023年認定 バット エルデネ ハグワデュラムさん(モンゴル)

「We Are The World」合唱の瞬間には、テーマに選ばれた「暖」という文字がなぜ多くの人々の心を捉えたのかを改めて理解しました。日本での留学生活は決して順風満帆ではありませんでしたが、これまでの日々を振り返ってみると、いつも大切な時に私を助け、支え、温かさを与えてくれる人たちがいることが「暖」の意義だと理解しました。

→2025年認定 盛 智倫さん(中国)



ユーモアあふれるモーリーさんのご講演は大変面白く、同時に深く考えさせられる内容でした。ご自身の日米での学校生活や暮らしの経験談を通じて、「相手に寄り添う」という異文化交流の大切な視点など、多くの示唆をいただきました。また、グループディスカッションでも貴重な学びを得ることができ、美味しい食事をいただきながら同級生と再会し、新たな奨学生の皆さんとも交流できて嬉しく思いました。さらに、各業界の第一線で活躍される方々のパフォーマンスはどれも素晴らしく、感銘を受けました。

→2013年認定 羅 杭峰さん(中国)

卒業してからもう何年も経ちますが、今回の第一部のディスカッションで、みんなで真剣に議論し発表していた頃のことを思い出し、とても懐かしい気持ちになりました。以前担当してくださった方にもお会いでき、皆さん相変わらず良かったです。イオンの方や大使館の方にもお会いできて、たいへん貴重な経験でした。用意していただいたお食事とても美味しく、演奏もとても気に入りました。本当に幸せな一日でした。毎回イオン スカラシップのイベントに参加するたびに、とても楽しい気持ちになります。もし同窓会が設立されるなら、いろいろなイベントにぜひ積極的に参加したいです。

→2016年認定 劉 曉妍さん(中国)

